

2014年12月に関西学院大で開催!

## 日本最大のグローバル大学博覧会 「第2回 GO GLOBAL JAPAN EXPO 2014」

文部科学省は、グローバル人材育成に力を入れる大学を支援する「経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援」事業を進めている。2014年12月、この事業に採択された42大学を中心に、高校生や高校関係者などを対象とした「第2回 GO GLOBAL JAPAN EXPO 2014」が関西学院大で開催される。代表幹事校の関西学院大の神余隆博副学長に狙いや思いを聞いた。

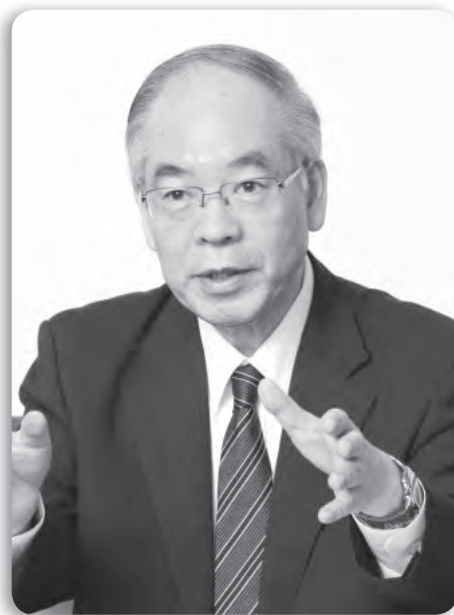
### 自分の将来と向き合い 今すべきことを考えてほしい

この度、代表幹事校として、「GO GLOBAL JAPAN EXPO 2014 (以下、EXPO)」を開催できることを光栄に思っています。第2回となる今回のテーマは、「自分、ミライ発見!」グローバルキャリアから進学・留学を考えよう!」です(図1)。文部科学省が行う「スーパーグローバル大学等事業」の「経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援」に採択された42大学を中心に、博覧会形式で各大学の取り組みについて

情報発信すると共に、トークセッションやパネルディスカッション、高校生参加型のプログラムを通じて、高校生が自分の将来に向き合い、具体的に何をどのように学べばよいのかを考え、大学への期待を高める場にしたと考えています。EXPOの狙いや高校生に伝えたいメッセージなどをお話いたします。

### 「内向き志向」な高校生にこそ 強く働き掛けたい

今の日本は経済・社会が成熟し、かつてのような高度成長が望めない中で、少子化による生産人口の本格



関西学院大  
副学長(国際連携機構長)  
神余隆博  
しんよ・たかひろ

大阪法学部卒業後、外務省入省。在デュッセルドルフ日本国総領事、国際社会協力部長、国際連合日本政府代表部特命全権大使、在ドイツ特命全権大使等を歴任。1996年博士号(法学)取得。2012年4月から現職。ドイツ功労十字勲章、フランス・シュバリエ勲章を受章。大阪大客員教授。

的な減少を迎えようとしています。そうした状況下で、日本が国際社会の中で輝きを失わないためには、これまで以上の資質や能力、意欲を備えた、いわゆるグローバル人材を育

成することが必要であり、それがこれからの大学における最大の使命といえるでしょう。ここ数年、「大学生が内向き志向になった」ということをよく耳にしま

図1 「第2回 GO GLOBAL JAPAN EXPO 2014」開催概要

第2回 GO GLOBAL JAPAN EXPO 2014

「自分、ミライ発見！～グローバルキャリアから進学・留学を考えよう！～」

- 日時 2014年12月21日(日)10時～17時30分 参加費無料、入退場自由
- 会場 関西学院大 西宮上ヶ原キャンパス 中央講堂(125周年記念講堂)、G号館
- 対象 高校生・保護者・高校教育関係者・その他一般
- 主催 文部科学省・経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援 採択大学 42校
- 参加大学 **国立大** 北海道大、東北大、筑波大、埼玉大、千葉大、お茶の水女子大、東京大、東京医科歯科大、東京海洋大、東京工業大、一橋大、新潟大、福井大、名古屋大、京都大、大阪大、神戸大、鳥取大、岡山大、広島大、山口大、九州大、長崎大  
**公立大** 国際教養大、愛知県立大、山口県立大、北九州市立大  
**私立大** 共愛学園前橋国際大、神田外語大、亜細亜大、杏林大、慶應義塾大、国際基督教大、芝浦工業大、上智大、昭和女子大、創価大、中央大、東洋大、法政大、武蔵野美術大、明治大、早稲田大、愛知大、京都産業大、同志社大、立命館大、関西学院大、立命館アジア太平洋大 (2014年9月3日現在)

す。確かに留学者数の推移を見ると、そのように感じます。しかし、実際に学生に接していると、言われているほど内向き志向ではないと感じることが多々あります。

高校2年生を対象とした調査(\*)

では、大学進学希望者の65%が「グローバル人材になりたい」という考えを持っていることが分かりました。ところが、実際に留学したいと考えている生徒は、2割未満に過ぎません。グローバルに活躍したいと思っ

てはいるものの、「英語力に自信がない」「経済的に厳しい」など、何らかの理由で、最初から留学を考えていなかったり、希望していても諦めてしまったりしているということが、実態ではないかと思えます。

しかし、留学して日本の外に出ていくことは、かけがえのない学びをもたらします。だからこそ、可能な限りハードルを取り除き、学生の背中を押してあげることが、グローバル人材を育てる上で、大学の大切な役割といえます。

そのような観点から、このEXPOは、留学を希望する高校生への情

報発信だけを目的とはしていません。潜在的に留学に関心のある多くの高校生が、世界を舞台に活躍する人たちの体験談などから「なりたい自分」を見付けて夢を描き、そのために留学が有効な手段であると捉え、各大学に留学関連の多彩なプログラムがあることを知り、「学生時代に留学するのは面白そう」といった意識を持つようになるように働き掛けるプログラムを用意しています。このように、留学への関心を喚起した上で、留学のための奨学金制度や、各大学の実践的な英語力を養成するプログラムなど、具体的な制度を伝えることで、「留学しない理由」を1つずつクリアしていきたいと考えています。

各大学の先進的な取り組みを一度に見られるイベント

今年125周年を迎える本学は、開学以来、「Mastery for Service (奉

仕のための練達)」をスクールモットーに掲げ、隣人・社会・世界に奉仕する人材の育成を目指し、国際教育にも力を注いできました。各大学も同様にグローバル人材の育成に力を注いでいますが、大学個々に努力するだけでなく、今回のEXPOのように、国公私立や地域の枠を超えて集結し、一斉にグローバル教育に関する情報を発信する機会を持つことは意義深いと考えます。

会場では、49の参加大学(9月3日現在)などがブースを出展し、グローバル人材の育成について、来場者の関心を高めるように工夫した展示や説明を行います。高校生は会場を一巡すれば、各大学の様々な取り組みに関する情報を手でできます。関心のある大学があつて来場する高校生も多いと思いますが、会場を巡るうちに「この大学の取り組みも面白そうだな」といった新たな発見をするに違いありません。また、北から南まで各地の大学の充実した取り組みを知ること、地域の多様性に気付いてもらいたいという思いもあります。

参加大学にとっても、いろいろな

\*一般社団法人全国高等学校PTA連合会・(株)リクルートマーケティングパートナーズ調べ「第6回 高校生と保護者の進路に関する意識調査 2013」

面から各大学の取り組みを比較し、自校の特長をより良いものとするために磨きをかける機会となるでしょう。良い意味での協力和競争が生まれ、大学同士が切磋琢磨できるようなイベントにしたいと考えています。

## 東京オリンピックを切り口に 将来へのイメージを膨らませる

当日のプログラム(図2)は、大きく午前・午後に分かれています。

午前は、トークセッションとパネルディスカッションが中心です。トークセッションでは、2020年に開催される東京オリンピックを切り口として、今の高校生が、日本、そして世界にどう貢献できるかを考える内容を予定しています。

1964年開催の東京オリンピックは、日本の高度経済成長を象徴する出来事で、更なる飛躍の契機となり、4年後の68年には国内総生産が当時の西ドイツを抜いて世界第2位となりました。その当時と今は状況が全く異なりますが、日本にとってオリンピックを契機とする2度目のジャンプはあるのか、日本が世界へ

と門戸を開く第2、第3の開国のきっかけになるのではないかと、そして、その中で今の高校生はどのように生きていくべきか、そうした議論を展開していきます。高校生には、5年先、10年先を見つめて自分のことを考えて欲しいと考えています。まさに、オリンピックが開かれる年は、今の高校生がちょうど大学を卒業して社会に出る時期であり、イメージを膨らませやすいことも、東京オリンピックをテーマに定めた理由です。

パネルディスカッションでは、高校生にとつて、より身近な議論を展開します。高校生にも「2020年、国際化する日本社会にどう貢献できるか」というテーマで提案してもらい、トークセッションの登壇者が議論を深めていくことを計画しています。グローバル人材として、具体的にはどのような能力が求められるのかといったことを深めていき、高校生と一緒に考える場にはしたいと思います。夢を見ることはとても大切ですが、それを実現するためには現実を引き寄せて考える必要があります。パネルディスカッションでは、そのような視点も提示したいと思います。

## 総論を踏まえた各論で 具体的な手段を提示

午前のプログラムが「総論」であるのに対して、午後のプログラムは「各論」を進めていき、高校生参加型の企画が中心になります。

例えば、午前のプログラムの話を聞いて「なりたい自分」へのイメージを膨らませた高校生は、次に「そのためには、大学でどのような学びをすればよいのか」と考えるでしょう。そこで、高校生参加型企画①「世界で働く人たちに聞いてみよう!」では、航空会社、商社、旅行会社などで活躍する社会人を招き、グローバルに活躍するためには、具体的にどのような能力が必要かを語ります。

また、大学生が留学に踏み切れないう大きな理由の1つに、英語力への不安があります。そこで、「カリスマ英語教師」として知られる兵庫県の私立灘中学・高校の木村達哉教諭に、苦学意識を克服し、英語を楽しく勉強する方法について講演してもらいます。

その他、「各国からの外国人留学生

の経験談から日本の良さを再発見し、日本人としてのアイデンティティを深める」「大使館員や留学経験者の話を通して、留学の実情を知り、勉強方法や奨学金などの情報を得る」「高校生による英語プレゼンテーションを聞いて刺激を受ける」といった企画を行う予定です。また、ランチタイムには、留学生の協力を得て、世界各国の料理を提供します。

ここまで、私は「グローバル人材」という言葉を何度か用いていますが、この言葉が意味するところを一言で表すのは、なかなか難しい問題です。一般に、英語力、交渉力、多様性、アイデンティティ、タフネスなど、様々なコンピテンシーが定義されていますが、それら全てを満たす人材を育てるのは難しいでしょう。

恐らく、グローバル人材に決まった形はなく、いろいろなタイプが存在するのではないのでしょうか。極端な言い方ですが、英語が苦手なグローバル人材がいてもよいのです。1つでも「これだけは誰にも負けない」という強い自信やアイデンティティを持ち、世界に目を向けている人材が「グローバル人材」といえ

## 図2 「第2回 GO GLOBAL JAPAN EXPO 2014」プログラム概要

### ●全体企画 「TOKYO 2020: 社会はどう変わる？ 私たちに何ができる？」

東京オリンピックが開催される2020年は、現在の高校生が大学を卒業し、社会人として歩み始めるタイミングと重なる。東京オリンピックを契機に、国際化が進む近未来の「日本の姿」を識者の話を通じて思い描き、「自分たちがどう貢献できるか」を考える。

#### ●トークセッション テーマ「東京オリンピック・パラリンピック2020への期待:日本はこう変わる」

国際経験豊富な識者など、3人程度によるトーク。コーディネーターは、関西学院大教授で、日本テレビ「NEWS ZERO」キャスターの村尾信尚氏。

#### ●パネルディスカッション テーマ「2020年、国際化する日本社会にどう貢献できるか」

高校生登壇者の提案等を踏まえて、トークセッション登壇者が議論を深める。

### ●高校生参加型企画① 「世界で働く人たちに聞いてみよう！」

グローバルキャリアで働く人々の話から、なりたい自分になるために、どのような学びが必要かを考える。キーノートスピーカーは、「ナニワのカリスマ添乗員」の異名を取る、日本旅行メディアトラベルセンター「ヒラタ屋」代表・平田進也氏。他にも、航空会社、商社、国際的に活動するNGOなどから3人の登壇者によるパネルディスカッションを行う。

### ●高校生参加型企画② 「Try English! 英語の苦手意識、克服しよう！」

「カリスマ英語教師」として著名な灘中学・高校教諭の木村達哉氏によるセミナー。「英語は楽しい」という意識を芽生えさせるきっかけを提供。

### ●高校生参加型企画③ 「What's 'Cool'? 目から鱗! 留学生の日本再発見」

留学生が来日して発見した日本について、易しい英語で発表。留学生の目を通し、日本人が気付かない日本を発見することを狙いとする。関西学院大や他大学の留学生16人が参加予定。

### ●高校生参加型企画④ 「留学のこと、大使館員&先輩が教えます！」

大使館員や各国に留学経験のある大学生約16人が、各国の大学情報や留学事情を伝える。

### ●高校生参加型企画⑤ 「高校生英語プレゼンテーション大会」

「世界の中の日本 いま私ができること」をテーマに、本選出場者7人がプレゼンテーションを行う。

\*プログラムの内容は全て2014年9月3日現在のものです(内容は変更される場合があります)。詳細は専用のウェブサイトをご覧ください。<http://ggj-expo.com/expo2014/>

るのだと思います。そうした人物となるために何より大切なのは、学び続ける姿勢です。社会に奉仕するために得意分野を磨くと共に、「自分がなりたいもの」だけではなく、「自分がなるべき姿」という視点からも、自分の将来を考え

## 保護者や高校教員との協働を促進する機会に

EXPOでは、保護者や高校の先

るきっかけをEXPOで提示したいと思えます。

生方にも参加を呼び掛けています。特に、グローバル人材を巡る議論や各大学の情報発信は、保護者にとって子どもの将来を考える上で新たな発見を得る場となるでしょう。

保護者が社会や未来について自分の考えを持ち、人生の先輩としてアドバイスし、応援すること

とは、子どもの将来に大きなプラスとなります。私たち大学も全力を尽くしますが、学校任せで子どもが育つものはありません。子どもの将来について、大学と保護者が一緒に考える機会となるようなEXPOにしたいと考えています。

また、グローバル人材の育成においては、高校の先生方の協力が欠かせません。出来るだけ早い時期から、子どもに対して留学という選択肢を提示しておくことが望ましいと思えます。

しかし、大学だけではグローバル人材の育成が難しいのと同様に、高校が単独で頑張ろうとするのもまた厳しいと思

います。ですから、高校の先生方は、決して自分たちだけで悩まないでいただきたいと思えます。近年、高大連携の取り組みが活発化しています。出来ることはまだまだたくさんあるはずですが、大学と高校が協力して生徒を育てていきましょう。EXPOでは、高大双方にとって、これからの取り組みのヒントが見いだせるはずです。

今後、日本が国際社会で活躍する上で主役を担うのは、今の高校生に他なりません。生徒たちが持つ可能性は、まさに無限に広がっています。EXPOは、高校生がそうした自覚と覚悟を持つように促し、大学に進んで勉強する理由を深く考える機会とします。

世界で通用する日本人を育てるために、大学は日々、努力を続けています。グローバル人材の育成に熱心に取り組む大学が全国から集まるEXPOの会場で、きっと高校生は大学側の「本気」を感じ取ることでしょう。

それでは、皆様にご来場をお会い出来ることを楽しみにしています。